



HeartCore Robo

導入事例集

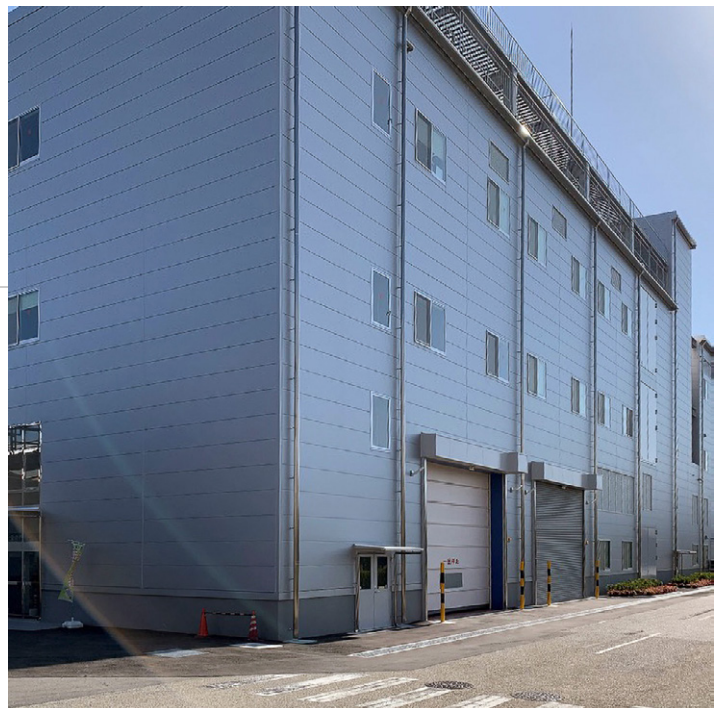


RPA事例紹介 Vol.3

ASブレーキシステムズ株式会社

ASB ASブレーキシステムズ株式会社

お話：生産管理部部長 鈴木 章様・ご担当者 山元かおり様



導入の経緯(背景)、 どのようにしてRPA化を実現したのか

2021年8月に、ハートコア株のRPA開発支援ソフトである「HeartCoreRobo製品」を導入されたASブレーキシステムズ株を訪問し、生産管理部部長 鈴木 章様及びご担当者の山元かおり様のお二人から、導入経緯とRPAの活用事例について、説明を頂きましたので、紹介申し上げます。

――貴社におかれて、具体的にどのような業務課題からRPA化を実現しようと思われましたか？

弊社では、仕入業者から日々納品される「納品書伝票」が、月間約16,000枚程発生し、生産管理部では、基幹システムの「検収データ」と「納品書」の記載内容が正しく記入されているか？数量に記入ミスや誤差は無いかなどの照合チェックを人海戦術で人手にて行ってい

HeartCore Robo



て、照合担当者には単純繰返し作業ではあるが、大きな負担となっていました。

―――月間約16,000枚ですと、約800枚/日相当(20日/月)で、照合チェック時間は、約34秒/枚で、一日中専任担当者が、休みなく働くという状態で、とても「働き方改革」とは言えない状況でしたね。

そうなんですよ！そこでRPAロボット製品が雑誌や専門誌などで評判になっていたので興味を持った訳です。が、我々は、自分たちの業務が実際にRPA化で自動ロボット化ができるのか？難しいのか？の判断ができませんでした。

そこで、弊社のIT化を支援してくださっている㈱パラミックスの方々にご相談しましたところ業務の内容を把握されたうえで、RPA化でロボットによる自動化が可能だというお返事を頂きました。

可能というお返事に勇気をもって、それならばと、もう一つの長年の課題についても相談をさせていただきました。

その課題とは、弊社では、製造製品に何らかの事故が発生したる場合、事故発生の際の製品の製造ロット番号から数十年に亘って遡って納品された「納品書」を探し出す仕事があり、それは、倉庫の片隅に眠る過去数十年間の大量段ボール箱に入れられた「納品書」の束から探し出すという仕事も行っています。

過去の手作業主体の現場では、倉庫保管スペースの面でも段ボール箱が段積されていて、人海戦術で探すにも非常に手間のかかる仕事となっていました。

倉庫スペースも、年々広げ、探すのは益々大変になるという問題を抱えていました。

この二つ目の課題についても、このような「紙媒体」は、電子化(PDF化)して製造ロット番号をキーに保存しておけば、倉庫スペースは最小限となり、納品書の検索面でも非常に効率的ですし、基幹システムからの検索可能との回答が頂きました。

こうした2つの課題が、一気に解決するならばという思いから㈱パラミックス様にRPA化を含めた開発の依頼を致しました。

―――そのような経緯で、今回のご導入となったのですね。

具体的には、どのようにRPA化を実現されたのでしょうか？

- ①紙媒体の「納品書」を全てスキャナーに読み込ませて、PDFファイル(電子)化をするとともに全文OCR化されたデータを作成する。
- ②次に、HeartCoreRoboを起動して、スキャン完了のメールを送信する。
- ③処理年月日と分類分け区分等、弊社が付与したい情報をダイアログボックスで選択し、処理開始ボタンをクリックする。
- ④ロボットは、手順に従い以下の処理を行う。
 - 1) PDFファイルのバーコードから基幹システムのデータを検索し紐付けを行う。
 - 2) 手書き欄に記入があるかの判定を行う。
 - 3) 押印欄に「押印」があるかを判定する。
 - 4) 基幹システムのDBとPDFファイルと照合し、その結果を登録する
 - 5) 次の伝票の照合に移る。
- ⑤すべての照合処理完了のメールを送信する。
- ⑥最後に、照合の処理結果の怪しい情報は、基幹システムで確認し修正する。

導入投資効果

―――今回の投資対効果につきまして、率直なご意見をお聞かせください。



まず、手作業で行っていた「納品書仕訳作業」(800分/月)が、実施後は、200分/月に成り、600分(10時間)の作業時間短縮が図れた。

この時、作業改善策として導入した納品書読み用のスキャナーでの作業時間が、2-4回/日(10分/日)増えて、200分/月(3時間20分)の増加が新たに発生したことで、実質これまでの作業では、「6時間40分/月」の削減効果があったと言えます。

次に、基幹システム(BRAINS)と照合する作業(下請け対象分と対象外分に分けて行う作業)についてであるが、特に、下請け対象業者分は、月毎に検収分納品書の全てが揃っているかを1件ずつチェックする作業が3時間/月掛かっていましたが、スキャナーでの納品書読み込みによって、これらの照合作業が、30分/月で可能となり、2時間30分の作業時間軽減に結びついている。

今後は、現在「下請け対象外分」の照合作業時間である500分/月(8時間20分)に取り組み、この作業時間の軽減を追加する予定である。

その次の作業である「直送支給プルーフチェック」の手作業は、実施前は、全件チェックを実施していたため220分/月(3時間40分)掛かっていた作業が、エラー分のみのチェックを可能としたことで、「2時間/月」の作業時間短縮が可能と成りました。

同様に、納品書の保管作業(実施前:1時間30分/月)も入荷日毎にまとめてラベルを貼って保管していたが、読み都度入荷日保管されるため、表示ラベルの記入や貼り付け作業が無くなり、保管作業だけの30分/月にまで削減できました。

従って、過去の納品書検索作業についても、1件につき20分間/件ほど要していた作業時間が、現在は、必要部署がコンピュータによる情報検索によって即刻PDFファイルで検索・印字が可能となった為、それまでの責任部署の作業が皆無となった。

今後は、2022年度の電子書類保存が承認されれば、書類保管スペースの大幅な削減と倉庫保管料金の削減と共に管理工数の削減も期待できることとなる。

投資金額は、初回年間ライセンス料金が75万円(開発版+実行版:2実行ライセンス)とRPA開発費25万円/1本の合計100万円(初年度投資総額)という実績から現状の「下請け対象分」のみを対象の場合で、1年間の削減時間は、年間削減時間=(12時間10分/月×12か月=146時間/年間)と成り、時間給=3,000円/人としても、43万8千円/年の作業人件費の削減となる。

ここに、「下請け対象外の照合作業を機能追加」すると、8.3時間/月の作業時間の削減効果が期待でき、年間99.6時間すなわち約29.9万円/年の年間作業人件費の削減が可能となる。

故に、当作業業務での削減作業時間の人件費は、「73万3千円/年間」が理論上のコスト削減となり、100万円-73.3万円=26.7万円/年・拠点という結果であるが、当RPAライセンスは、他社と異なり同時実行ライセンスによる料金体系で、開発版と実行版とで2実行ライセンスを年間契約していることから弊社の他の拠点に展開することで、十分投資効果が得られるし、類似作業業務の複数のRPA化も考えられることから、今後、初期投資に対する単純繰返し作業からの脱皮と働き方改革としての作業者のモラル向上効果及び保管倉庫の削減など、多面的な投資対効果に期待をしています。

今後のRPA化展望

―――今後のRPA化推進などの展望は如何ですか？

同様の業務及び他の類似伝票での処理が弊社には、数多く散在していますので、他工場を含めてRPAによる自動ロボット化を推進し「働き方改革」を進めていきたい。

(株)パラミックスへのご意見やご希望

――最後に、今回御社のRPA化推進へ協力頂いた(株)パラミックスについてのご意見・ご要望があれば、お聞かせ下さい。

弊社のメンバーは、ITに強くはないので、こうした業務改革や改善に関するご相談とITに関する技術的なご支援を継続的に今後もお願い致したい。

――この度は、ありがとうございました。

この度は、ありがとうございました。

ASB ASブレーキシステムズ株式会社

会社名：ASブレーキシステムズ株式会社

設立：2007年10月

本社所在地：〒664-0016 兵庫県伊丹市昆陽北1-1-1

資本金：2億5千万円(2020年3月末現在)

業種：自動車部品製造業

従業員数：1,545名(2020年3月末現在)

工場拠点数：2拠点(他にグループ関連会社有)

主力取扱い製品等：自動車用ブレーキ製品の生産